

一、二月二十四日(月) 一三〇〇

一、一〇四教室

一、試験に關して、その他

一、研究科・聴講生の詮衡について

(七) 第五十八回卒業式(昭和二十二年三月)

第五十八回卒業證書授與式

昭和二十二年三月二十九日午前十時

卒業式に於ける學校長の告辭概要

本日御卒業の諸君は、就學中戰爭の爲、思ふ様な勉強も出来なかつたにも拘らず最後迄止つて勉學を重ね、此所に晴れて御卒業なされた事に對して心から御歡びを申上げる。此の時に當つて一言御注意を申上げて諸君に對する餞けとする。

今日程音樂熱の旺勢やうせいな時はない。と同時に音樂家にとつては今日程危険な時はないと思ふ。それは今日の様な、全國的に音樂熱の旺勢やうせいな時には、一寸した事でも有名になり、高額の收入を得る事も出来るのでともすると大事な勉強を怠つて、名聲を高める事や、収入の多い方に流れやうとする事に傾き易いものである。こう云ふ時にこそ、人を相手にせず、天を相手にしてじつと勉強をする心が一番大切である。

能樂の方の創始者である世阿彌の言詞に「命には果あるも、能には果あるべからず」云ふのがあるが、これは西洋の諺の「生命は短く、藝術は長し」と同じ意味であり、共に藝術にたづさわる者の心構へを云つたものである。つまり藝術には之で良いと云ふ限度がな

い。一生勉強を續けて行かなければならないと云ふ事である。その爲には、高い所に目標を置かねばならぬ。自分の感ずる所では藝術家はどうも人との對象と云ふ事に心を置き過ぎる様に思ふ。又地方の學校の教職員となる人の心構へとしては、現在日本の青年子女に對して當へる、音樂の教育と云ふ事に關しては非常に重大な意義があるので大いに努力、勉勵して貰ひ度い、之からの日本の再建には之等情操教育が如何に重大であるかと云ふ事を第一に考へなくてはならない。

最後に、現在の地方に行はれてゐる一般的音樂の傾向も非常に危険性が多く、且つ之に従事してゐる人間の種類にも非常に低級な者が多いので、其の中に這入つて行つて戦つて行く事は竝々ならぬ事である。

諸君は此の點にも大いに確かりとやつて戴き度いと思ふ。之を以つて諸君への、御祝の言詞とし、餞けとする。以上

(手書き) (昭和二十二年度 第五十八回卒業式並卒業生一件書類)

(八) 戦後の住宅事情による校内居住の資料

戦後の住宅事情により、校内に居住する教職員もいた。

音會一九一號 發送9月30日

昭和二十二年八月十三日起案

伺

左記の通り官舎料金を徴收して差支ありませんか。